

地方における郷土館等施設の現状

霧島市教育委員会 小水流 一樹

1 霧島市の概要

- ・ 鹿児島県の大隅半島と薩摩半島の中央部に位置
- ・ 平成 17 年に国分市・溝辺町・横川町・牧園町・霧島町・隼人町・福山町の 1 市 6 町が合併して誕生
- ・ 面積：603.18 平方キロメートル
- ・ 人口：124,816 人（令和 3 年 11 月 1 日現在）
- ・ 指定文化財件数：国指定文化財 10 件、県指定文化財 27 件、市指定文化財 92 件

2 霧島市立郷土館等施設

霧島市内には 5 つの郷土館等施設が存在する。

① 国分郷土館				
特 徴	霧島市国分地域の歴史と民俗資料を中心に展示する。山城の頂上にある公園に附属する。			
収 蔵 物	約 2,000 点	入館者数	R 1 年度：1,595 人	R 2 年度：844 人
代 表 展 示 物	止上神社の面、西郷隆盛直筆の書、城山山頂遺跡出土物など			
② 隼人歴史民俗資料館				
特 徴	霧島市隼人町の歴史・民俗資料、鹿児島神宮に関する資料を中心に展示する。鹿児島神宮境内に位置する。			
収 蔵 物	約 3,200 点	入館者数	R 1 年度：1,619 人	R 2 年度：1,133 人
代 表 展 示 物	日秀上人遺品関係資料、鹿児島神宮関係資料など			
③ 隼人塚史跡館				
特 徴	国史跡「隼人塚」のガイダンス施設。古代南九州の「隼人」に関する説明と「隼人塚」の歴史と整備について。国史跡「隼人塚」の史跡公園内に位置する。			
収 蔵 物	約 90 点	入館者数	R 1 年度：1,672 人	R 2 年度：1,080 人
代 表 展 示 物	正国寺跡石仏、鹿児島神宮四天王石像など			
④ 横川郷土館				
特 徴	霧島市横川地域の歴史と民俗資料、山ヶ野金山に関する資料を中心に展示する。1 階部分が郷土館、2 階部分が図書館。基本無人。			
収 蔵 物	約 1,200 点	入館者数	R 1 年度：36 人	R 2 年度：59 人
代 表 展 示 物	安良神社仮面、山ヶ野金山関係資料			
⑤ 霧島歴史民俗資料館				
特 徴	霧島市霧島地域の歴史と民俗資料、霧島神宮に関する資料を中心に展示する。霧島公民館に隣接し、公民館職員が開け閉めを行う。基本無人。			
収 蔵 物	約 2,000 点	入館者数	R 1 年度：107 人	R 2 年度：46 人
代 表 展 示 物	椎原家関係資料、霧島神宮関係資料			

※ 5 館共通事項

開館時間	9:00～17:00
入館料	一般 150 円 (団体 120 円)、小中高生 80 円 (団体 60 円)

3 管理体制

- ・ 基本的には教育委員会社会教育課が運営・管理を行う。
- ・ ①～③は管理人が常駐し、日曜はシルバー人材センターからの派遣が業務を行う。
- ・ 管理人は入館料対応、簡単な説明、施設の掃除。
- ・ ④⑤は基本無人。入館希望者は隣接する公民館や図書館職員に鍵開けしてもらう。

4 収蔵物・展示の管理

- ・ 基本的には教育委員会社会教育課が管理を行う。①国分郷土館のみ常設管理人が展示を作る場合もある。
- ・ 収蔵物の受け入れや出し入れ等も基本は社会教育課職員で対応。
- ・ 企画展は毎年、どこかの館で行うようには努める。基本は1人の職員が企画・準備を行う。委託料等もな
いため、手作りでの作成。
- ・ 企画展を行った後に常設展示を作る余裕がないため、期間終了後は企画展が常設展に…

5 現状・課題

人員 不足

- ・ 学芸員職の不在により、専門的な知識がないままに館が運営されていく。
→収蔵物の管理体制の杜撰さ
- ・ 館の管理は文化財職員の職務の一つであり、郷土館運営に手が回せない。
→常設展示の長く変化がない展示物、旧市町村名の未訂正、古い
- ・ 職員が市役所常駐で、館の管理に目が届かず、収蔵物の把握と整理ができない。

建物 管理

- ・ 建物が古い・狭いで活用ができない
→コロナ対策をするには狭すぎて、学習室の利用ができない。
→ネット環境等もなく、アナログ施設
- ・ 広い市内に複数あり、入館者数も少ないため、集約が目標に
→新しい施設は財政的に認められにくい

行政 管理

- ・ 取扱はあくまで「社会教育施設」
→公民館と同じくくりであり、緊急事態宣言等の際には
「市外へ往来のある人の利用の制限」を行い、実態と対策の乖離

6 問題提起

- 地方の郷土館施設は、博物館足りえるのか？
 - 分類上は「博物館類似施設」であり、収蔵庫等の限界がある中で、地域の資料を収集していく。
 - ⇔ 学芸員不在であるため、「研究」することも「保存」も中途半端になってしまう。
 - ⇒ 古い資料が溜まり、古い展示が残り続ける。資料館自体が古いものとして置かれている状況

- 施設の集約（統廃合）を進める際の問題
 - 市内に散らばっている施設を集約し、一館にまとめることで管理費の削減を目指す
 - ⇔ 集約した際の収納場所の環境への配慮も過大
 - 集約するにもかかわらず、館の面積の拡充は認められなさそう
 - いらぬ収蔵物は捨てればいいという意見（博物館的な視点の欠如）
 - ⇒ 博物館的な考え方を理解してもらわないと、計画がなかなか進まない

- 博物館（郷土館）を社会教育施設・観光施設どちらに位置づけるのか
 - 社会教育施設 → 市民を対象とし、低い入館料
 - ⇔ 歳入が低いため、修繕費などの獲得が難しい
 - 観光施設 → 外部からの集客を目的とし、稼げればその分を修繕費等に充てられる
 - ⇔ 展示の企画や体験などを積極的に行わなければならない。